

令和3年度男子新体操若手指導者講習会（関東会場） 報告

令和4年1月29日、男子新体操委員会が主導し、若手指導者講習会を開催しました。本講習会は、選手として第一線を退いたあと、後進の指導をするために必要な知識や手法を学ぶことを目的として実施しました。

当初は、対面での実施を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により急遽予定を変更して、国士舘大学よりオンライン配信という形で実施することとなりました。

これからの男子新体操を担っていく高校生や大学生、若手指導者を中心に38名の方に参加いただきました。

前半は、国士舘大学女子体操競技部監督である小畑秀之氏に「これからの男子新体操に必要な指導者の考え方」を講義していただきました。

小畑氏は、これまで指導者としてジュニアから大学生まで幅広いカテゴリーで、選手を日本一に導いた実績があります。



指導する上で必要なものの見方、考え方について、受講者とのやりとりを通してお話していただきました。「目標とは？目的とは？」「ストレスって必要？」「プライドと見栄の違いは？」といった簡単そうで難しい質問に、受講者は知恵をしぼりながら答えていました。小畑氏の話聞きながら、受講者は深くうなずいたり、「なるほど！」という表情を浮かべたりしていました。今回お話いただいたことは、新体操のみならず、全ての物事に通じる内容となっていました。また、指導者にとってはもちろんのこと、高校生や大学生など現役選手にとっても参考になる部分が多くありました。

質疑応答では、「30代40代でやっておいてよかったことは？」という受講者からの質問がありました。小畑氏からは「すべてやりきった。極端な話、明日会社をやめてもいい、というぐらいのつもり。」と、全てのことに全力で取り組む大切さを教えていただきました。また、「学んだことを普段から意識するための方法は？」という質問に対しては、「メモして常に見えるようにする。」と、ご自身の経験も踏まえてお答えいただきました。

後半は、大垣共立銀行OKB体操クラブの白井俊範氏に「クラブ・教室の経営」について講義いただきました。男子新体操では、多くのチームが学校の部活動として活動しているため、クラブチームの経営について知ることができる貴重な機会となりました。



講義では、どのようにクラブチームを立ち上げていったかを時系列に沿って紹介していただきました。マスメディアを使って情報を発信したり、自ら情報を集め様々な人に掛け合ったりと、クラブチームを立ち上げるまでのエピソードを具体的に説明していただきました。お話の中では、何度も「ダメもとで」という言葉が出てきました。失敗を恐れず、とにかく挑戦してみることの大切さを、改めて学ぶことができました。また、事業計画書のデータを資料としていただくなど、将来クラブチームの経営を考える受講者にとっては、大変実用的で有意義なものとなりました。

質疑応答では、「銀行から融資を受けるためには、どういったところを見られるか?」「クラブチームの経営で食べていけるのか?」などの具体的な質問があり、受講者の関心の高さがうかがえました。

学校の部活動の在り方が見直されている中で、クラブチームの果たす役割は大きくなっていくことが予想されます。競技力向上や競技人口拡大のためにも、学校の部活動だけでなく、様々な形で男子新体操の裾野を広げていく必要があると感じました。

最後に、急遽オンラインでの実施となったにも関わらず、快く講師を引き受けてくださった小畑氏、白井氏、参加いただいた受講者の皆様、運営に携わってくださった方々に感謝申し上げます。

男子新体操委員会
福永 将司